

第15回 志望動機対策講座

日時：2020年2月18日（火）13:00～14:30

場所：文学部B251講義室

講師：加藤光枝氏（株式会社マイナビ）

今回のリテラアワーでは、マイナビの加藤先生に「志望動機のポイント」について詳しくお話しいただきました。エントリーシート記入時にも、また面接の際にも、避けては通れないのが「志望動機」です。どのような準備が必要か、またどのような点に気をつけたらよいのか、確認していきましょう。

採用する側がチェックするポイントは、「1. 仕事に対して理解があるか」「2. 中長期的に取り組みたいことがありそうか」「3. 適性を理解して応募しているか」「4. 今後、成長してくれそうか」といった点です。実際に、評価されない志望動機の例、あるいは模擬面接の動画を見てみると、同業他社との差別化ができていない、新卒募集職種とやりたいことがマッチしていない、消費者目線を脱し切れていない等、上記のポイントから外れていることがわかります。

では志望動機をまとめるためには、具体的にどのような準備をしたらよいのでしょうか。まずは「自己分析とのすり合わせ」が大切です。自分の特性（興味、価値観、能力）と、仕事の特性（業種、企業、職種）がどのくらい合っているかを分析しましょう。その会社について深く知るためには、企業のHPに掲載されている社長や社員のインタビュー記事を参考にするのもよいでしょう。次に「同業他社との比較」が必要です。一社しか知らない人と、十社を比較検討した人との「第一希望」はその重みが異なります。企業ごとによい点と悪い点をリストアップしていく方法や、「ジョブフラワー」と呼ばれる方法（同業種競合、異業種競合、関連・取引先、を調べて花びら状に並べていく）を用いるとよいでしょう。その際、企業理解のために押さえるべきポイントは、「企業の目標を明らかにする」「企業の取り組みを把握する」「他企業との違いを把握する」、また職種理解のために押さえるべきポイントは、「貢献の形を明らかにする」「困難と喜びを把握する」「他企業との違いを把握する」になります。

こうした作業を踏まえて、起承転結の流れを意識しながら文章化していきます。抽象的な表現（いろいろな経験、さまざまなことを学んでetc）や、ありきたりな言葉を使いすぎないように気をつけて、熱意が伝わるよう、自分なりの志望動機をまとめてください。

最後に、アンケートの中から、感想をいくつかご紹介します。

「具体的な事例を挙げてもらったので、理解しやすかった。」

「これまで漠然としていた志望動機を、もっと掘り下げなければならぬと痛感した。」

「意識すべき点が押さえられてよかった。講師の先生の話方からも学ぶ所が多くあった。」

参加者：学部・大学院生 11名、教職員 2名

